

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	日穀製粉株式会社					
代表者名	氏名	小山 紀雄	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野市南千歳一丁目16番地2					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	09 食料品製造業				
主たる事業の概要	そば粉、そばミックス粉、小麦粉、そば米、そば茶、米粉の製造および販売					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	2288	2219	2137	2116	2082
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	4653	4513	4329	4282	4202
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	0		0	0	0
自動車の台数	台	11		12	21	21
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	55				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	平成 28 年度	計画期間	平成 29 年度～ 平成 31 年度
報告対象年度	平成 31 年度		

3 計画書（報告書）の公表方法等

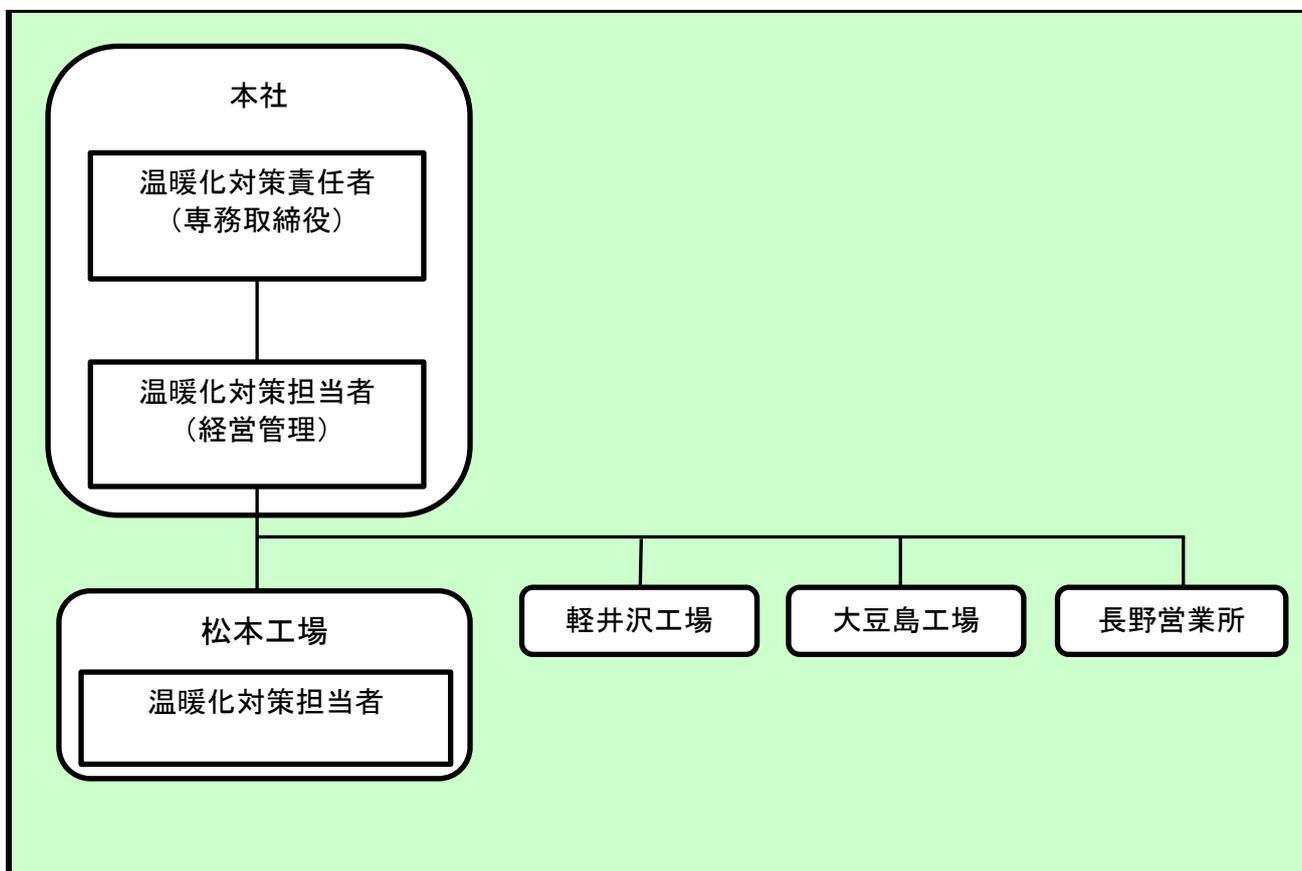
<input type="checkbox"/>	ホームページ	場所：日穀製粉(株)松本工場 時間：9:00～17:00 担当部署：生産技術課 連絡先：0263-25-6360
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

様式1号
(総括票)

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

企業活動による環境への影響を認識し、エネルギー及び資源の効率的な活用及び環境保全の推進を行う。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

なし

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	4,653	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
28年度	調整後排出量	4,627	t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量	4,513	t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
31年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%		3
目標設定に関する説明	エネルギー使用量の監視、高効率機器の積極的な導入により、3年間で二酸化炭素の排出量原単位を3%削減する。						※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。	
第一年度	排出量	4,329	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	4,300	t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
29年度	削減率	6.96	%	削減率		%		0.6
排出量等の増減理由	◎排出量減要因 ・松本工場での加工数量の減少。製造ラインの改修時に高効率モータ機器の導入が増加。又、定期的な電力監視を行い、電力の削減に努めたことが要因。							
第二年度	排出量	4,282	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	4,258	t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
30年度	削減率	7.97	%	削減率		%		-4.6
排出量等の増減理由	◎排出量増要因 ・松本工場で2018年11月より製品の品質が規格値内におさまらない事が多く、規格値内におさめるため、製品の再処理を行うリサイクル加工が増加。又、設備の冷却、製品の品質向上を行なうチラー設備22kWが稼働開始したため。 ・本社でエネルギー使用頻度の少ないエリアの床面積が減少したため。							
第三年度	排出量	4,202	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	4,173	t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
31年度	削減率	9.69	%	削減率		%		-8.6
目標の達成状況及び排出量の増減理由	◎排出量増減要因 ・松本工場加工数量が減少し、生産設備の稼働時間が減少。それに対しコンプレッサの運転時間があまり減少せず、結果として松本工場では原単位が増加。 ・そば茶原料製造工程が松本工場から軽井沢工場へ移転した。品質・衛生管理の基準をクリアするため、機械点数と衛生設備が増加し、軽井沢工場での電力使用量が増加した。							

様式1号
(総括票)

6の2エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	55	t-CO ₂			
年度						
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		状況	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	350699 松本工場 受変電設備及び配電設備に係るその他の削減対策	29	5	29	5
2	エネ起	380752 松本工場 LED照明の導入(20号倉庫)	30	4		
3	エネ起	310500 松本工場 生産工程別のエネルギー管理	29~31	10	31	2.5
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光発電設備(軽井沢工場)	kW	150	0	150	150	150

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	26		29	24	29
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1 1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000kl以上								
1,500kl以上 3,000kl未満	1	4,149	1	3,850	1	3,784	1	3,537
1,500kl未満	3	504	5	479	5	498	5	665
合計	4	4,653	6	4,329	6	4,282	6	4,202

1 2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
NF ₃	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1 3 次世代車使用台数、導入計画及び実績 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他 (ハイブリッド等)				
合計	0	0	0	0
自動車総数	11	12	21	21
次世代車導入割合				

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援状況

区分	内容
中小企業への省エネ診断	特になし
その他	特になし

1.5 交通対策状況

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	特になし
公共交通機関の利用促進	特になし
来客者の交通対策	特になし
物流の合理化	ガソリンフォークリフトを電動フォークリフトへ置き換え

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1		
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	特になし
第一年度実績	松本工場：制御盤ごとの電力遠方監視システム拡張 松本工場：工場内省エネパトロールの実施(1回/月)
第二年度実績	エアコン設定温度の統一化、クールビズの実施 工場内省エネパトロールの実施(2回/年) 温暖化対策を推進する社員の増強
第三年度実績	松本工場：生産技術部の2019年度部門目標に省エネ活動実施を設定し取組状況を定例会議で報告した。

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO ₂)
基準年度以前の取組み	松本工場：高速粉砕機モーターの高効率化、インバータ化	40
その他	松本工場：高速粉砕機に省エネVベルトの導入 松本工場：省エネエアガンの導入	3